

## 第六稿 梅田川（市民協働による川づくり）

梅田川では、市民の皆様と行政が協力して積極的に川づくりを行っています。

第六稿では、梅田川の自然やそこに住んでいる生き物、川づくりの内容について紹介していきます。

### 1 水辺の楽校プロジェクト

横浜市では、梅田川を平成10年度に「水辺の楽校プロジェクト」に登録し、河川改修工事と合わせて環境整備を行ってきました。水辺の楽校プロジェクトとは、国土交通省が行っているプロジェクトです。全国の様々な河川が水辺の楽校プロジェクトに登録され、水辺の整備活動が行われています。

梅田川では、市民の皆様と行政が協力して、流域の豊かな自然を守りながら子どもたちの水辺体験や遊び・学びの場として川が活用されるように、多くの活動に取り組んでいます。捨てられているごみを拾って梅田川をきれいにする「クリーン活動」や、流域の産物を使って活動する「梅田川を丸かじり」などのイベントを実施してきました。近年は、一本橋メダカ広場で、川の遊びを楽しむ「こども川の日」というイベントを、毎年海の日に開催しています。

#### 水辺の楽校プロジェクトの目的

- ①子どもたちの水辺の遊びを支える地域連携体制をつくる
- ②自然環境あふれる安全な水辺をつくる
- ③自然あふれる子どもたちの遊び場、自然体験の場として水辺整備を行う

また、水辺の楽校プロジェクトの活動の一環として、杉沢堰の保存活動が行われました。杉沢堰とは、梅田川の中心ともいえる杉沢付近に設置されている堰で、江戸時代に作られたと伝えられています。江戸時代の杉沢堰は、木製であったと考えられています。現在のコンクリート製になったのは昭和8年ごろで、当時の梅田川にある堰の中では最も立派なものであったと言われています。

当初は撤去する計画でしたが、梅田川が水辺の楽校プロジェクトに登録された後に開催した市民参加のワークショップにより整備計画を策定し、保存を決定しました。平成11年には、景観上貴重な歴史的・文化的資産である土木産業遺構として、横浜市の歴史的建造物に登録されています。現在でも、西側の谷戸からの流れが堰に流れ込んでいる、昔ながらの景色を楽しむことができます。



当初の計画より外側に新たな河道を整備し、堰を残すという案がワークショップで投票にて選ばれました。



現在の杉沢堰

## 2 梅田川流域

梅田川の流域には、豊かな自然だけでなく、自然を楽しむ施設や歴史的建造物が多く存在しています。

上流部から中流部にかけて広がる「**新治市民の森**」と「**新治市民の森**」は、自然と触れ合える憩いの場所になっています。これらの森には、地形の変化を楽しみながら散策できるように、様々な園路や小さい広場が整備されています。

中流部から下流部は、住宅街の間を流れているため、気軽に川を楽しめる自然スポットとして住民の方に親しまれています。河川敷をジョギングしたり、川に住んでいる生き物たちを観察したりと、多くの楽しみ方があります。

至恩田川

### ①一本橋メダカ広場



自然を楽しむイベント「こども川の日」が開催される広場です。

### ②杉沢堰



杉沢地域の稲作に貢献してきた堰の一つです。江戸時代に作られ、昭和初期に現在のコンクリート製になりました。

### ③梅田川遊水地



降雨時に増水した河川の水を一時的に貯めるための施設です。様々な生き物の生息地になっています。

### ④新治市民の森



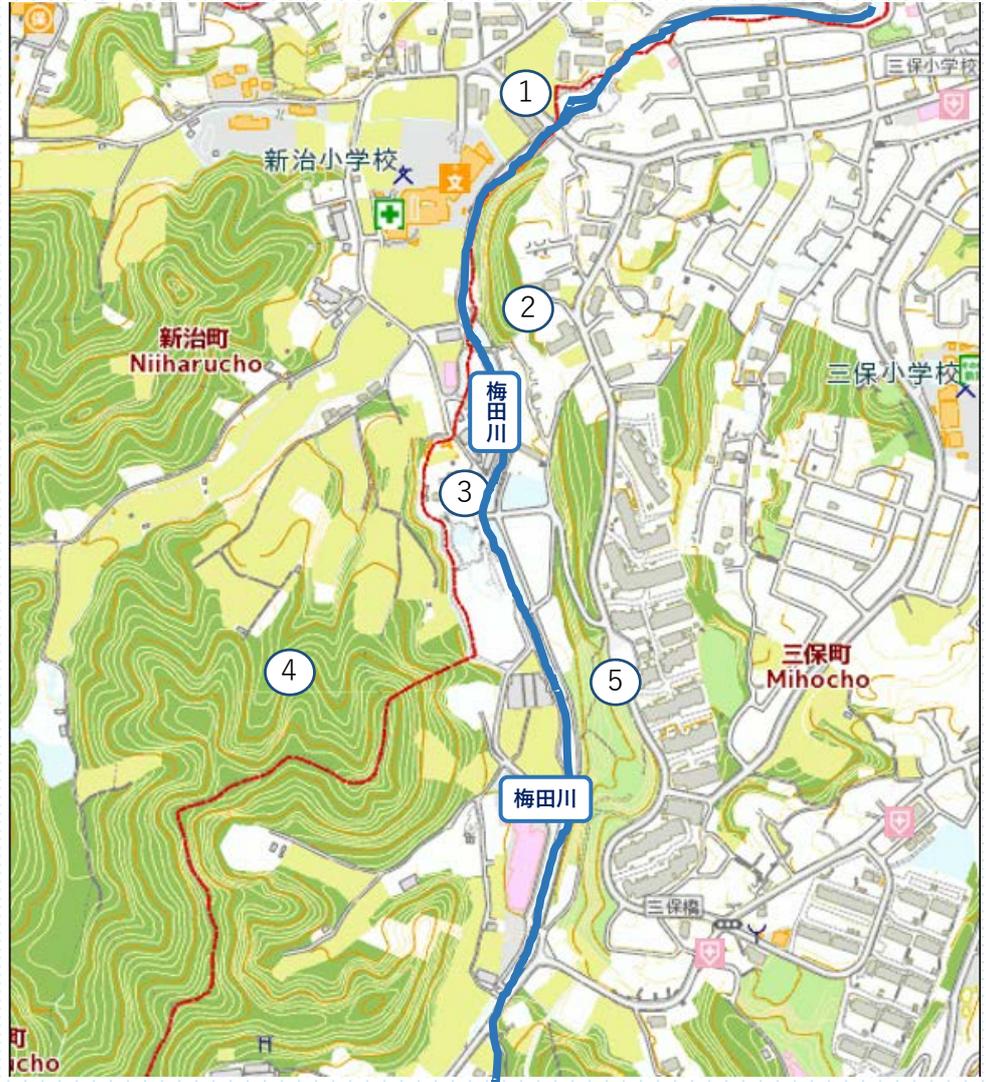
横浜の原風景ともいえる里山の景観が残っている森です。様々な園路が整備されているため、自然を楽しみながら散策することができます。

### ⑤三保念珠坂公園



梅田川と住宅地との傾斜地にある公園です。ウォーキングコースや遊具が整備され、多くの方の憩いの場となっています。

A



### 3 梅田川の動植物

梅田川は、新治や三保の谷戸の湧水を集めて恩田川に注ぐ小さな河川ですが、その流域には多くの動植物が生息しています。

川や水田、用水路では、**モツゴ**やゲンジボタル、サワガニや**ハグロトンボ**などを見つけることができます。カルガモやサギなどの鳥類も、餌を食べたり休憩をしたりするために水辺にやってきます。

これらの生き物の中には、環境省レッドリストの「絶滅危惧ⅠB類（ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの）」に掲載されている、**ホトケドジョウ**などの貴重な生き物もいます。ホトケドジョウは梅田川を代表する魚ですが、水質の悪化や河川・水路のコンクリート化などによる生息数の減少が心配されています。

川沿いには、イヌゴマや**キショウブ**などの植物が生息しており、四季折々の風景を作り出しています。

#### 魚類



#### ホトケドジョウ

梅田川の代表的な魚です。全長は約8cmで、流れが穏やかな細流や用水路に生息しています。環境省、神奈川県のリッドリストのどちらにも「**絶滅危惧ⅠB類**」として掲載されています。



#### アブラハヤ

「**準絶滅危惧種**」として神奈川県レッドリストに掲載されています。全長は約15cmで、河川の上流域から中流域にかけて生息します。さわるとヌルヌルするので「油を塗ったハヤ」と名前が付いたといわれています。



#### モツゴ

環境への適応能力が高い魚で、全長は約8cmです。おちょぼ口であるため「**クチボソ**」という別名を持っています。都市部の河川でも見ることができます。



#### オイカワ

全長約15cmの魚で、特徴はシリビレが大きいことです。「ヤマベ」、「ピワコ」と呼ばれることもあります。酸欠に弱いため、水質悪化の影響を受けやすいです。

#### 昆虫



#### ハグロトンボ

特徴は、名前の由来にもなったこの**黒い羽**です。環境悪化により数が減少した時期もありましたが、生息域の水質が改善したため、市内でも再び見られるようになりました。



#### ゲンジボタル

ホタルは、その場所の自然度を計る指標と言われており、きれいな水辺に生息しています。ホタルが作り出す幻想的な風景は、多くの人々を魅了し続けています。

#### 植物・鳥類



#### カワセミ

くちばしが長いことが特徴の鳥で、魚取りに優れています。羽の色が鮮やかなことから、「**青い宝石**」とも言われ人気を集めています。



#### キショウブ

水辺や湿地に生える多年草で、初夏に花を咲かせます。花は鮮やかな**黄色**で美しいですが、周囲の在来植物との競合や、遺伝的かく乱などが危惧されています。

引用) B~E 横浜市環境創造局環境科学研究所「横浜の川と海の生物（第14報・河川編）」

F,G, 横浜市オープンデータ

H 横浜市環境創造局環境科学研究所提供

I 横浜市河川企画課所蔵

神奈川県 淡水魚類図鑑 (<https://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f490000/p690260.html>)

環境省「生態系被害防止外来種リスト」 (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>)

※画像の無断転載・利用はご遠慮ください

## 4 梅田川を楽しもう！「こども川の日」

横浜市では、市民の皆様と行政が一体となった組織「梅田川・水辺の楽校協議会」が中心となって、「こども川の日」というイベントを、毎年海の日に一本橋メダカ広場で開催しています。このイベントは、「水辺の楽校プロジェクト」の一環として行っており、地域の子どもたちに梅田川とその流域の自然に親んでもらいながら、自然を大切にする気持ちを育んでもらうことを目的としています。いかだ遊びや水てっぽうあそび、ささふね作りや生き物調査・観察など、川ならではの遊びを楽しんでいます。



ささふねづくり体験



水鉄砲遊び



ザリガニ



生物調査



ホトケドジョウ



一本橋めだか広場



いかだ乗り体験



河川部マスコット  
「ハマカワさん」

梅田川では、よりよい自然環境を作るために、様々な活動やイベントが行われています。今後も、地域の皆様と一緒に、梅田川の保全に取り組んでいきます。